

おかやま地域づくり通信

第5号

令和5年第1号

「おかやま地域づくり通信」は岡山市で実施されている地域づくり活動や協働の取組を紹介することで、さらに多くの市民の活動への参画や協働への理解促進につなげることを目的として、岡山市(ESD・市民協働推進センター)が発行する情報誌です。



令和5年度市民協働推進事業の一場面。住民と専門家がまち歩きで確認した危険箇所や防災設備などをマップに落とし込んでいる。

目次

- ・令和5年度市民協働推進事業の紹介
- ・令和5年度区づくり推進事業「地域活動部門」の紹介
- ・地域活動のノウハウ ～地域活動アドバイザー派遣事業の紹介～
- ・ESD・市民協働推進センターの紹介

「市民協働推進事業とは？」

岡山市の社会課題を解決するために協働によって実施される事業に対して補助金を交付する制度です。補助期間は最大2年間で、補助期間が終了した後も岡山市の施策や団体の自主事業として取組を継続していくことを目指します。今号では、令和5年度から新たに開始された2つの事業について詳しくご紹介します。

事業名

イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業

解決を目指す課題

ワンウェイ(使い捨て)プラスチックをはじめとするごみの排出は世界的にも問題視されており、環境省や岡山市においても、脱プラスチックやワンウェイ容器の削減などの取組を推進しています。

令和4年度に実施団体と協働部署が岡山市内のイベント主催者を対象に実施した「市民協働推進ニーズ調査事業」では、環境に配慮したイベントへの関心はあるが実施方法がわからないとの声が多く聞かれました。

そこで、この事業では、環境(主にごみ削減)に配慮したイベント運営を促進するための、岡山市独自の「エコイベント認証制度(仮)」の構築を目指します。



イベント会場に設置された「ゴミステーション」

課題解決の方法(事業の内容)

- (1)地域内外の先行事例を収集して、独自の認証制度構築の準備を進める。
- (2)岡山市内で開催される各種イベントに対して、エコイベントとなるためのサポートを行う。
- (3)エコイベントのノウハウを広く発信する。



イベントで使用された食器を回収する様子

事業の目標

- (1)岡山市内で開催する複数のイベントについて、イベントの人数・規模やサポート体制を変えながら、環境配慮のための情報提供と各種サポートを試みる。
- (2)サポート内容に対する効果検証などを踏まえ、「エコイベント認定制度(仮)」の骨子作成を進める。

実施主体と役割

実施団体	NPO法人 タブラ ラサ	<ul style="list-style-type: none">・先行事例の情報収集・各種イベントへのサポート内容の考案と実施・サポートの課題確認、効果検証・HP作成、情報発信
協働部署	環境事業課	<ul style="list-style-type: none">・サポートの課題確認、効果検証・環境配慮イベント認定制度(仮)の骨子検討・補助期間終了後の一般施策化に向けた検討

実施団体紹介

NPO法人 タブラ ラサ (2004年設立)

人々が自分の住む地域に興味を持つきっかけをつくることを目的として、エコロジーをおしゃれに楽しむ企画、地域の強みを活用したまちづくりのアイデアなどを自由に発想し、多様な人を巻き込みながら、人々が行き交う場所を創造していきます。

・活動内容(一部抜粋):

- ①リユース食器の普及:「エコをスマート」にイベントからゴミを減らすために、リユース食器の貸し出しを行う。
- ②HAPPY SHARE CANDLE:結婚式で使用されたキャンドルをリサイクルする。

事業名

マンション管理をサポートする団体の裾野を広げるための連携事業
「災害リスクをチェックし、自身のマンションをより詳しく知る取り組み」

解決を目指す課題

岡山市の調査では、令和3年度末時点で市内に約500棟のマンションがあり、約26,000世帯が居住されていることがわかっています。また、現在も新築のマンションが次々と建設される一方で、築40年以上の高経年マンションが約40棟存在しており、10年後には現在の3倍、20年後には7倍に急増することが予測されています。

建物の高経年化と居住者の高齢化が同時に進行することで、建物の適正な維持管理が困難になり、居住者や周辺住民の安全・安心な住環境へ悪影響を及ぼすことが懸念されており、適正な管理のためには居住者間のコミュニティづくりと様々な問題をサポートする団体の拡充が必要不可欠です。

課題解決の方法(事業の内容)

市民の興味・関心が高く、コミュニティ形成を促しやすい「防災」をテーマとして住民・管理組合と専門家の協働による2事業(2年目は3事業)を実施します。

(1)災害リスク調査の実施

・マンションの立地特性を知り、防災に必要な取組を住民にアドバイスする。

(災害リスク研修)

・マンションの構造特性を知り、災害への備えをアドバイスする。(探検ツアー)

(2)サポート団体の発掘と体制構築

(3)マンション防災パンフレットの作成(2年目より)



マンション周辺の危険箇所や防災設備などを確認

事業の目標

- ・事業実施前後で本事業に参加した住民の意識が変化している。
- ・市内全域のマンションへ応用可能なしくみ(制度)が完成している。
- ・住民自身による適正管理を促進するツール(冊子等)が完成している。
- ・マンション管理をサポートする団体が事業実施前より1団体以上増加している。
- ・事業を実施したすべてのマンションで組合員名簿・居住者名簿が作成されている。



実施団体と協働部署による協議

実施主体と役割

実施団体	一般社団法人 岡山県建築士会 公益社団法人 日本技術士会 中国本部 岡山県支部	・災害リスク研修及び探検ツアーの検討 ・災害リスク研修及び探検ツアーの実施 ・レポートの作成(アドバイス含む)
協働部署	住宅課	・災害リスク研修及び探検ツアーの検討 ・災害リスク研修及び探検ツアーの広報 ・サポート団体に関する情報収集

実施団体紹介

一般社団法人 岡山県建築士会 (1952年設立)

建築士の品位の保持及びその業務の進歩改善に資するため、建築士に対する技術の研修並びに会員の指導及び連絡に関する事務を行うことを目的に、建築士法の規定に基づき設立された団体です。

「平成30年7月豪雨」では、災害対策委員会が中心となって様々な建設業界団体との連携体制の構築や、行政・社協との協働による住宅相談会、り災住家長期居住者等へのアドバイス事業を実施しました。

公益社団法人 日本技術士会 中国本部 岡山県支部 (1951年設立)

「行動し発信し地域に展開する公益社団法人日本技術士会中国本部 岡山県支部」として、技術士の資質向上、社会貢献活動の推進、戦略的な情報発信および地域に密着した活動の展開により、会員サービスの充実と技術士の知名度向上を図ります。中国本部の常設委員会に「防災委員会」があり、地域コミュニティ防災への支援、防災専門家の育成などに取り組んでいるほか、岡山県支部では岡山市立公民館との協働で「防災マップづくり支援」活動を展開しています。

令和5年度区づくり推進事業(地域活動部門)の紹介

区づくり推進事業は、区民が主体的に企画・運営する活動に対して、岡山市が予算の範囲内で活動資金の一部を補助する制度で、「地域活動部門」は主に地域の課題解決のための継続的な活動が対象となっています。

今号では、令和5年度から新たに開始された「和(なごみ)会」と「地域支え合い活動『ハチドリのひとつづく』」を詳しくご紹介します。

■事業名:和(なごみ)会

■実施主体:西紅陽台自治会

■実施地区:七区小学校区/南区

■地域の実情・課題:

- (1)共働き世帯の増加とともに子どもたちの学校と家庭の「すき間」時間が増えている。その「すき間」時間を安心して過ごせる場所を提供する必要がある。
- (2)地域住民と子どもたちのコミュニケーションの機会がなくなりつつある。

■事業の内容(計画):

- (1)子どもの居場所づくり
年4回程度、空き施設において「子どもの学習支援」、「子ども食堂」、「遊具提供」などを実施する。
- (2)プレーパーク(※)の開催
令和5年12月に地域のボランティアグループ等とともに子どもの遊び場を企画・運営する。

(※)子どもたちのやってみたいことが、できるだけ自分の手で実現できる遊び場。手づくりの遊具や自然の素材など、子どもたちが自由に遊ぶための道具や素材を用意している。また、道具の使い方や

遊び方などを教えてくれるプレーリーダーがいる。この事業では、プレーパーク運営の実績・経験を有するNPO法人岡山市子どもセンターにサポートしてもらう予定。

■期待される成果・目標:

「学校」と「家庭」という環境に「地域」を加え、子どもにも地域住民にも「地域の子ども」という意識を定着させる。



令和5年7月に実施した「そらめん流し」の様子

西紅陽台自治会の会長として「和会」事業の企画・運営を担っている森川泰明さんにお話をお聞きしました。

Q. 事業の実施に至った経緯を教えてください。

A. 「百年前までは海だった」干拓地に、我々の西紅陽台があります。歴史も神社もない場所で我々が次世代に残せるものは、住みやすい環境と、「この地で生まれてよかった。」「この地で育ってよかった。」とこの地を「故郷」と考えてくれる子どもたちを一人でも多く育てていくことです。少子高齢化が顕著な環境下でお年寄りと子どもの共存できるまちづくりを目指していきたいと思い、事業実施に至りました。

Q. 事業を通じて地域がどのように変化することを期待されていますか？

A. 自治会単位から小学校区へ「和会」の輪を広げていき、昔の標語にあった「叱ってください、うちの子ども」の光景が、あちこちで見え、話が聞こえてくるような地域を目指して粘り強く周知に努め、区づくり推進事業を展開していきたいと考えています。

Q. 事業のアピールポイントを教えてください。

A. 「和会」とは、次世代を担う子どもを皆で守り、育てていくことだと心得ています。



西紅陽台自治会の会長 森川 泰明さん

「つながる協働ひろば」をご存じですか？

おかやまNPO・ボランティアサイト「つながる協働ひろば」では、過去に実施された区づくり推進事業(地域活動部門)の情報を公開しています。右のコードからサイトへ移動して「過去の区づくり推進事業」タブをクリックしてご覧ください。



■事業名: 「地域支え合い活動『ハチドリの一としずく』」

■実施主体:御南中学校区地域支え合い活動実行委員会

■実施地区:西小学校区・御南小学校区/北区

■地域の実情・課題:

- (1)新築マンションへの入居や転勤等による移住者(比較的若い世代)が多いため、子育て時の孤立化が問題となっている。
- (2)以前から地域に住む住民と引っ越してきた住民との交流機会が少ない。

■事業の内容(計画):

- (1)地域子育て支援事業「たねっこ」の開催
地域住民主体の「みんなでみんなを見る」スタイルでの子どもを中心とした交流活動(毎月4回程度)
- (2)地域支え合い活動
・新春おかげ祭り(令和6年1月開催)
・敬老の日「ばら寿司」交流会(9月開催)
- (3)御南西公民館との共催による子育て支援活動
子育て座談会を毎月1回開催
- (4)その他
地域団体との協働企画会議を毎月1回開催

■期待される成果:

子育てを地域のみinnで見守ることで「ひとりじゃない」安心感を生み、産後鬱や育児ノイローゼなどで悩む保護者を減らす。

活動を通じて「地域防災拠点」の周知拡大をはかり、「災害に強い地域づくり」に貢献する。



敬老の日の「ばら寿司」づくりの様子

御南中学校区地域支え合い活動実行委員会の事務局長として事業の運営を担っている永野直子さんにお話をお聞きしました。

Q. 事業の実施に至った経緯を教えてください。

A. 御南中学校区は、北長瀬～問屋町エリアなどの生活の利便性が高いことから、子育て世代や転勤族が増えている学区です。子育て世代(核家族)の孤立化の解消、また、多世代住民の繋がり希薄化が地域課題として挙げられる中で、その解決策として、学区の諸団体が協働する実行委員会を結成して、もともとボランティア団体「くらしのたね」が主催していた子育て支援事業と地域交流事業を継承し、区づくり推進事業として、学区をあげてこの課題解決に取り組むこととしました。

Q. 事業を通じて地域がどのように変化することを期待されていますか？

A. 一つは「子どもをまんやかに、地域で子どもを育てる」地域への変化です。

子育てを地域のみinnで見守ることで「ひとりじゃない」安心感を生み、孤育て(※)を解消することが期待できます。

もう一つが「災害に強い地域づくり」です。多世代が交流し繋がることで「顔の見える関係性」が構築でき、災害発生時に支え合える「災害に強い地域づくり」に貢献することが期待できます。

(※)孤育て=子育ての孤立化

Q. 事業のアピールポイントを教えてください。

A. この活動に参加する方、関わる方々は、なぜか本当に温かい方ばかり！この温かいエネルギーが合わさって、様々な世代が関わりながら、この活動が続いていく事で、子育てしやすい地域、災害に強い地域のモデルとなれることを期待しています。



永野 直子さん

地域活動のノウハウ紹介 ～「市民活動支援アドバイザー派遣」について～

岡山市では、市民活動・地域活動に役立つ知識・技術を有する「アドバイザー(実践者)」を市内の様々な活動現場に派遣して、活動の活性化やレベルアップにつなげていただくことを目的に「市民活動支援アドバイザー派遣」を実施しています。ここでは、「アドバイザー派遣」の概要とあわせて、2名のアドバイザーの紹介と実際にアドバイザー派遣を利用した方々の感想を紹介します。

■制度の概要

- (1) 地域課題の解決を図る非営利活動の関係者の悩み・要望に応じたアドバイザーを派遣します。
- (2) 助言してほしい内容に沿って、会議、講座、ワークショップ等の形式でアドバイスを提供します。
- (3) アドバイザー派遣の実施後2か月以内であれば、追加の相談(フォローアップ)を行うことができます。
- (4) 対象となる団体は岡山市内に拠点を置く非営利の市民活動団体で、令和5年4月1日時点で次の①又②を満たすことが条件です。
 - ①「岡山ESDプロジェクト」参加団体、または「つながる協働ひろば・団体検索サイト」に登録している
 - ②1年以上継続して活動している。注)民間企業、政治団体、宗教団体等は対象外となります。
- (5) 申請期間は令和5年4月1日～令和6年1月31日です。
- (6) アドバイザーへの謝金や交通費は不要です。
- (7) お問い合わせ・お申し込みは「ESD・市民協働推進センター」までお願いします。
TEL:086-803-1062 E-mail:esd-smc@googlegroups.com



■アドバイザーの紹介(順不同・敬称略)

内容	アドバイザー	所属
Zoom等のICTを活用した地域活動	杉本 倫典	竜之口学区電子町内会
支援者拡大のためのマーケティング・データ活用	奥田 修平	認定NPO法人ポケットサポート
様々な組織と地域で活動する上での付き合い方	美咲 美佐子	NPO法人岡山市子どもセンター
地域の特性を活用して地域を元気にする活動	藤原 基勝	高野尻村をつくる会
高経年・高齢化に負けないマンション管理とコミュニティづくり	加藤 典保	一般社団法人日本マンション管理士会連合会
効果的な広報・プレゼンテーションのポイント	井口 陽平	NPO法人若者応援コミュニティのりす
イベントの企画やSNS活用について、大学生目線でコメントやアドバイスを得る(意見交換)	大学生	ノートルダム清心女子大学(地域連携・SDGs推進センター)
地域と社会福祉法人がつながる地域活動の始めかた	前田 泰史	社会福祉法人報恩積善会
地域の困りごとの把握方法と支え合い活動の始めかた	柿崎 由秀 難波 徳行	平島健康福祉委員会 とみやま助け合い隊
ESD活動の導入	内藤 元久	京山公民館

アドバイザー(地域活動実践者)の紹介



杉本 倫典さん
(竜之口学区電子町内会)

Q. 杉本さんは普段はどのような活動に取り組まれていますか？

A. 電子町内会(※)を通じて、いつでも、どこにいても町内会の活動に参加したり、予定を閲覧できるようにしたいと思い、ICTを活用した取り組みを進めています。コロナ禍では、YouTubeのライブ配信機能を利用して、複数の会議室を相互に生中継することで、一部屋あたりの収容人数を減らして会議を開催することができました。

(※)「電子町内会」とは、インターネットを利用して町内会活動をはじめ、地域情報を広く発信するとともに、会員相互で町内会の身近な出来事の情報交換を行い、地域コミュニティの活性化や市民の情報化を進めていこうとするもの。

Q. 杉本さんのノウハウをどのような場面で生かしてほしいとお考えですか？

A. 町内会活動でのデジタル利用を習慣化・定着させることにより、高齢者のデジタルへの苦手意識を軽くしながら若い人たちが町内会の活動に参加しやすい環境づくりを実現したいと思っています。

Q. 難波さんは普段はどのような活動に取り組まれていますか？

A. 令和5年3月末まで、とみやま助け合い隊や富山学区安全・安心ネットワーク協議会、富山地区社会福祉協議会、富山学区小地域ケア会議の事務局を担当していました。今は、学区の自主防災会を手伝っております。

Q. 難波さんのノウハウをどのような場面で生かしてほしいとお考えですか？

A. 小地域ケア会議(※)を立ち上げてほしいと思います。学区主要団体の役員が定期的に地域の諸課題について自由に議論する場が必要です。議論の中から新しい施策が生まれます。「まちは、住民がつくる！」です。

(※)「小地域ケア会議」

多職種協働のもと、個別ケースの課題分析等を積み重ね、地域課題の把握や地域づくりなどに結びけることを目的として開催される会議のひとつ。主に地域課題の把握のために地域が主体となって、小学校区単位で実施されるものを指す。



難波 徳行さん
(とみやま助け合い隊)

アドバイザー派遣利用者のご感想

- ・アドバイザー派遣の利用者:多田 美佳さん(一般社団法人はるそら 代表理事)
- ・派遣されたアドバイザー:奥田 修平さん(認定NPO法人ポケットサポート)
- ・アドバイスの内容:支援者拡大のためのマーケティング・データ活用

Q. 奥田さんからどのような助言を受けましたか？

A. 私たちの活動は若年性認知症の本人及びその家族の支援になりますが、その活動のほとんどを寄付や助成金で運営しているため、認定NPO法人ポケットサポートがどのような方法で寄付を集めているかなどを伺いました。活動内容は異なりますが、支援のニーズなどに共通する部分が多くあり、私たちの活動を振り返る機会にもなりました。

Q. 多田さんの活動にどのような効果・変化がありましたか？

A. 奥田さんからいただいたアドバイスをふまえてホームページをリニューアルしました。また、活動報告書を制作し、医療・介護関係者だけではなく、どなたにも分かりやすい冊子を作成しました。結果的により多くの方に「はるそら」の活動を知っていただき仲間が増えました。アドバイスを活かして、これからも活動していきたいと思っています。

協働のパートナー見つけます！



ESD・市民協働 推進センター



市民協働推進事業

- ・課題解決を進めるために、多様な主体の出会いの機会をつくり、協働事業課を支援します。
- ・協働の担い手となる主体の発掘・育成を進めます。
- ・協働による課題解決の事例を広げ、協働の意義を広めます。



地域協働支援事業

- ・地域における課題解決型の取組を支援します。
- ・課題解決型の地域活動を生み出し、協働のできる地域団体・人材の育成をすすめます。



ESDプロジェクト普及・促進事業

- ・ESD事業の発掘や活動支援を行い、市民活動へのESDの浸透をはかります。

ESD・市民協働推進センターは、岡山市協働のまちづくり条例に規定された「協働のコーディネート機関」として、平成26年度の事業開始以降、約140件(年平均17件)のマッチングに携わってきました。コロナ禍では対応件数が大きく減少しましたが、令和5年度以降はコロナ以前と同様に積極的に相談対応・マッチングに取り組んでまいります。岡山市との協働を志す市民の皆様、ぜひ、ESD・市民協働推進センターをご活用ください。

発行日:令和5年(2023年)11月30日 発行元:ESD・市民協働推進センター
〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1-1 岡山市役所 本庁舎2階 市民協働企画総務課内
TEL:086-803-1062 FAX:086-803-1872 E-mail:esd-smc@googlegroups.com
URL(つながる協働ひろば):<https://www.city.okayama.jp/kyoudou/index.html>